

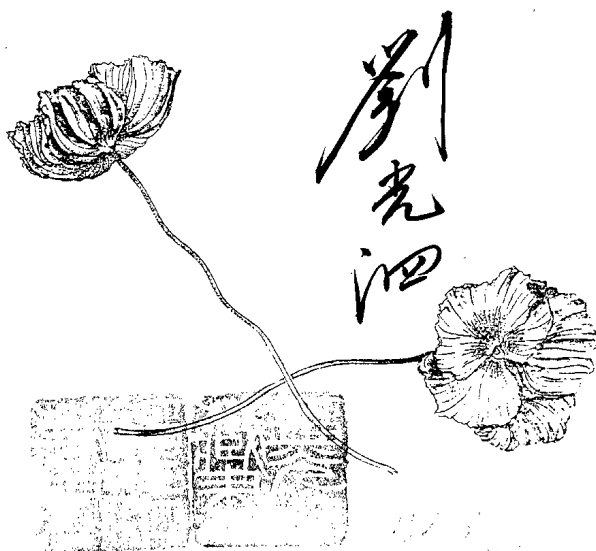
マリンバ名曲30選

ALBUM OF 30 SELECTED PIECES FOR MARIMBA

<Xylophone and Vibraphone>

Arranged and Compiled by

Eyichi Asabuki



共同音楽出版社

朝吹英一編

マリンバ名曲30選



ALBUM OF

30 SELECTED PIECES FOR MARIMBA

<Xylophone and Vibraphone>

Arranged and Compiled by

Eyichi Asabuki

刊型・頁	定価
倍刊 各32	各 300
(L) 168	各 1200
(P) 200	各 600
各 64	各 600
各 64	各 700
各 64	各 700
各 64	各 600
各 80	各 450
各 80	各 350
各 64	各 600
各 96	各 1000
各 112	各 600
各 96	各 600
各 112	各 600
各 104	各 900
各 48	各 400
各 48	各 800
各 96	各 400
各 76	各 800
各 40	各 380
各 48	各 500
各 48	各 1000
各 132	各 480

郎

出版社

PAN-SHA, Tokyo

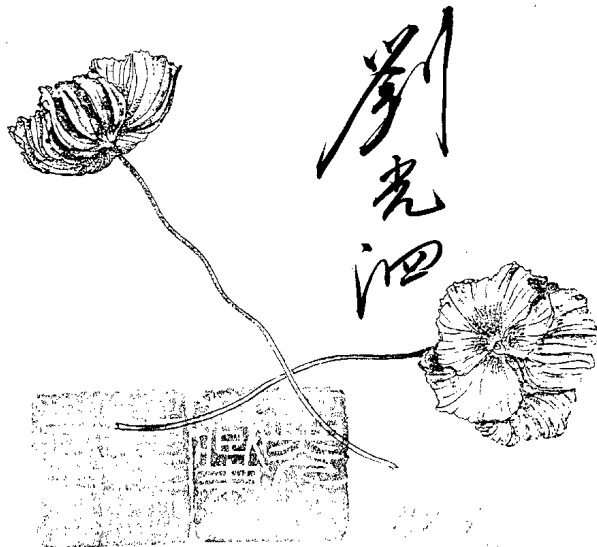
マリンバ名曲30選

ALBUM OF 30 SELECTED PIECES FOR MARIMBA

<Xylophone and Vibraphone>

Arranged and Compiled by

Eyichi Asabuki



共同音楽出版社

は し が き

音楽をする者にとって欠かすことの出来ないものは、楽器と楽譜です。従来は、木琴演奏者にとってこの二つとも大変不自由勝ちでしたが、近頃は非常に良いマリンバ（マリンバもシロフォンと共に日本語でいうと木琴の中に入ります）が出来ようになりました。

しかし楽譜の方はまだまだで、マリンバ奏者の腕も上がり、幅も広くなるにつれて、その不足が痛感されています。

伝統的に木琴楽譜の発行に力を入れて来た共同音楽出版社では、今までに私が同社から出していた数種の木琴曲集を整理統合し、これに新曲を加えて一つの大きなアルバムとして、世に出すことになりました。

この本は初級、中級の曲は勿論、相当高度の技術を要する曲まで、およそ木琴曲として代表的なものは総て厳選網羅してあります。これ1冊ですべて間に合うということを目標に編集しました。

160頁というマリンバの曲集としては空前のものを企画された共同音楽出版社の英断に敬意を表すると同時に、これが必ずや全国マリンバ愛好家のお役に立ち、愛用されることを確信します。

朝 吹 英 一

マリンバ名曲30選

Contents

朝 吹 英 一 編

曲目	作編曲者	頁
☆ 曲目解説		4
☆ 日本木琴協会のご案内		158
1. グレトリーのガボット	グレトリー 作曲	8
2. ト調のメヌエット	贝多芬 作曲	10
3. 登山電車	デンツァ 作曲	12
4. 深い河	黒人霊歌	15
5. 「荒城の月」変奏曲	朝吹英一 編曲	18
6. 歌のつばさに	メンデルスゾーン 作曲	22
7. トルコ行進曲	ベートーヴェン 作曲	25
8. アレルヤ	モーツァルト 作曲	30
9. 君を呼ぶリラ	朝吹英一 作曲	36
10. ゴセックのガボット	ゴセック 作曲	40
11. 影の踊り	マイヤーベヤー 作曲	42
12. ドナウ河のさざ波	イワノビッチ 作曲	45
13. ロンドンデリーの歌	アイルランド民謡	54
14. 白銀の輪	朝吹英一 作曲	56
15. レッド・リヴァー・ヴァレー	アメリカ西部民謡	60
16. 「アルルの女」よりメヌエット	ビゼー 作曲	62
17. ラデツキ行進曲	ヨハン・シュトラウス 作曲	67
18. 「雪山讃歌」による幻想曲	朝吹英一 作曲	72
19. アメリカン・パトロール	ミーチャム 作曲	78
20. きつつきボルカ	朝吹英一 作曲	88
21. ボッケリーニのメヌエット	ボッケリーニ 作曲	94
22. 行進曲「旧友」	タイケ 作曲	97
23. カブリース	ストビー 作曲	105
24. 「ウィリアム・テル」幻想曲	ロッシーニ 作曲	108
25. 「ミニョン」より序奏とガボット	トーマ 作曲	117
26. 行進曲「軽井沢の美人」	朝吹英一 作曲	124
27. シャコンヌ	デュラン 作曲	130
28. ワルツ	朝吹英一 作曲	134
29. ジブシイ	朝吹英一 作曲	140
30. 「天国と地獄」序曲	オフェンバック 作曲	146

曲 目 解 説

朝 吹 英 一

[1] グレトリのガボット 〈グレトリ作曲〉

グレトリは 16世紀の終りから17世紀のはじめに活躍したフランス喜劇の祖ともいべき人です。このガボットは、まことに愛すべき典雅な作品で、簡単な三部形式になっていて、短調と長調の対比がすぐれています。

[2] ト調のメヌエット 〈ベートーヴェン作曲〉

巨匠ベートーヴェンの作になる愛らしい小品の一つで、バイオリンでよく演奏されます。曲の前半はねばり気味に、トリオは少し速いテンポで軽快に奏しますが、あまり極端に速くしないように注意して下さい。

[3] 登山電車 〈デンツァ作曲〉

風光明媚なイタリアのナポリ近くにあるベスピアス火山に登山電車が開通したのを祝って作られた歌です。うきうきするようなメロディとはずむようなリズムは、世界中の人に親しまれて、今ではイタリアの代表的な曲の一つになっています。

[4] 深い河 〈黒人霊歌〉

アメリカの黒人霊歌中でもメロディックなもので、深い河が悠々と流れるような感じが伴奏のアルペジオと木琴の旋律に出ています。その底には苦しく悲しい宿命を背負ったニグロの心の叫びが渦巻いています。歌こそ彼等にとって唯一のなぐさめで、その中で彼等は遠くヨルダンの深い河を偲びながら来世に希望をつないでいたのです。

[5] 「荒城の月」変奏曲 〈滝廉太郎作曲・朝吹英一編曲〉

滝廉太郎の名歌「荒城の月」をテーマとして、これにマリンバやビブラホン向きの変奏をつけたものです。

[6] 歌のつばさに 〈メンデルスゾーン作曲〉

恵まれた環境の中で、美しい音楽を作曲したメンデルスゾーンの歌曲の中でも有名なもので、アルペジオの軽い伴奏に乗って、あたかも天空を飛ぶような心地のする曲です。

[7] トルコ行進曲 〈ベートーヴェン作曲〉

ベートーヴェンが劇場音楽として作った「アテネの廃墟」の中の行進曲で、東洋的なムードがよく表われています。モーツァルトのトルコ行進曲と共によく演奏されます。

[8] アレルヤ 〈モーツァルト作曲〉

古今東西を通じて、音楽史上最大の天才といわれているモーツァルト (1756-1791) は、その優雅華麗な楽風をもって、無数の珠玉の如き作品を各分野に残しました。アレルヤとは「エホバを讃えよ」という意味で、彼の21才頃の作品で、四部からなる聖歌「エキザルタート」の独唱部をなしています。ソプラノ歌手のレパートリーを飾る名歌で、映画「オーケストラの少女」の中でディアナ・ダービンが歌って以来我が国でも一層ポピュラーになりました。

[9] 君を呼びりラ 〈朝吹英一作曲〉

近く春を惜しみつつ、去りゆく青春を回想した歌で、元来は声楽曲として作られ、楽譜の冒頭の如き時がついています。前奏はヴィブラフォンのような感じで幻想風に行ない主部に入ってから木琴はオクターブのトレモロ奏法で歌って行きます。

[10] ゴセックのガボット 〈ゴセック作曲〉

ゴセックは古いベルギーの作曲家で、ガボットはその頃の典雅な舞曲です。もとはヴァイオリンの曲ですが、今では木琴の曲として有名な位です。昔の曲らしく品よくひきます。

[11] 影の踊り 〈マイヤーベヤー作曲〉

マイヤーベヤーは、19世紀の前半、ドイツで活躍したユダヤ系の作曲家で、その作品としては歌劇「子音者」の中の戴冠式行進曲は今でもよく演奏されます。この曲は「ディノラ」という喜歌劇の中のバレ音楽で、しゃれた美しい曲です。

[12] ドナウ河のさざ波 〈イワノビッチ作曲〉

日本でも昔から名高いワルツです。速度や拍子、調子の変化に注意しましょう。ワルツに入ってからはやや早めに奏します。

[13] ロンドンデリーの歌 〈アイルランド民謡〉

世界中で親しまれている美しいメロディーで、オクターブ奏法で全部の音にトレモロをかけてひくときれいです。

[14] 白銀の輪 〈朝吹英一作曲〉

銀輪を運らねて嬉々と行く楽しい若人のサイクリングを歌った歌で、一番の歌詞は次のようになっています。

白銀の輪かがやかせて
行く楽しいサイクリング
ペダル踏む足も軽やか
ベルはひびきわたる
空は青く晴れて
飛んで行く白い雲
いつとなく声を含わせて
歌も軽く走る
タララン タララン
タラランランラン

[15] レッド・リヴァー・ヴァレー 〈アメリカ西部民謡〉

ウェスタン音楽のスタンダード曲の一つです。一回目はオクターブ奏法、二回目は和音奏法でひいて下さい。

[16] “アルルの女”よりメヌエット 〈ビゼー作曲〉

カルメンの作曲家として有名なフランスのビゼーが作った音楽の一つで、原曲はハーブの伴奏にのってフルートがいかにもフランスらしいのどかな、また雅びやかなしらべを奏します。

[17] ラデツキー行進曲 〈ヨハン・シュトラウス作曲〉

ワルツ王ヨハン・シュトラウスの父の作曲になるもので、ウィーン風の軽快なリズムは非常に人気を集めています。

[18] 「雪山讃歌」による幻想曲 〈朝吹英一作曲〉

この曲の原曲は「いとしのクレメンタイン」というアメリカの民謡で、明るく素朴で、しかも一抹の哀調をおびたところが愛され、日本では「雪山讃歌」として若い人達の間で盛んに歌われています。これはそのテーマを基として木琴向きの変奏などを織りこんで作った幻想曲です。

[19] アメリカン パトロール 〈ミーチャム作曲〉

元来はオーケストラ用の描写曲ですが、今では木琴の曲と思われている位、木琴でよくひかれ、またグレン・ミラーはこれをジャズに編曲しました。

アメリカの軍楽隊が軍歌や民謡を吹奏しながら、遠くから来て、また遠くへ去ってゆく情景を描いた曲で、最弱から最強へ、そしてまたその逆に、と力の配分がむづかしい曲です。

[20] きつつきボルカ 〈朝吹英一作曲〉

きつつきがコツコツ木を叩く有様を木琴で描いた曲で、序奏で木琴がひく16分音符はこれを表わしています。いつも曲切れよく、かつリズムミカルに演奏して下さい。テンポはあまり早すぎないように。

[21] ボッケリーニのメヌエット 〈ボッケリーニ作曲〉

ボッケリーニはイタリアの古典作曲家で、チェロ協奏曲が一筆有名です。これは弦楽合奏曲の中の一楽章で、典雅な趣きをもっているのに、独立してよく演奏され、木琴にも大変に適しています。

[22] 行進曲「旧友」 〈タイケ作曲〉

ドイツの勇壮な行進曲として運動会等でおなじみの曲で、第一主題の繰り返しの際はピアノに出るカウンター・メロディー(うらぶし)は特に浮き出させるようにします。なだらかなトリオの前半と、踊り上がるような後半の対照も十分に考えて下さい。尚この曲は普通の行進曲より構造が雄大で、定石通り演奏すると長くなりますから、全部繰り返しをしてD. C. (ダ・カーポ)を省くか、繰り返しをしないでD. C. をするか何れかにするとよいでしょう。

[23] カブリース 〈ストビー作曲〉

モッキング・バード幻想曲の作者であるアメリカの木琴作曲家ストビーの小品で、カブリースは踊り曲と訳し、自由な気まぐれな気分の曲をいいますが、この曲は一定のリズムで整然と進みます。

[24] 歌劇「ウィリアム・テル」幻想曲 〈ロッシーニ作曲〉

イタリアの歌劇作曲家ロッシーニ(1792-1868)は軽快な旋律をもって知られていますが、このウィリアム・テルも殊にその序曲は異色ある描写風の曲として今日多くのファンをもっています。これはドイツ近代の木琴の名手であったフランツ・クリューガーがその歌劇の中から序曲の「静寂」舞踊曲及び序曲の「終曲」をとってこれに木琴向のガデンツァや変奏を挿入して編み上げた幻想曲で、我が国でも昔からクリューガーやライツのレコードによって親しまれて来た木琴曲中の古顔です。今回はこのクリューガーの編曲を多少近代的に改編したものを掲載しました。

[25] 歌劇「ミニョン」より序奏とガボット 〈トーマ作曲〉

歌劇「ミニョン」はゲーテの原作を基にトーマが作曲したフランス歌劇で、ロマンチックな旋律の美しさで知られています。その序曲の一部と間奏楽のガボットを編曲したのがこの曲で、軽快な趣きに富み、名高い「雲よ知るや南の国」のメロディーも含まれています。

[26] 軽井沢の美人 〈朝吹英一作曲〉

編者が若い頃木琴のために作曲した最初の曲で、行進曲の形式になっています。前半のト調の部分

は軽快に、トリオの旋律は甘美に、そしてその変奏は華やかに演奏します。

[27] シヤコンヌ 〈デュラン作曲〉

デュランはフランスのサロン作曲家で、軽い小品が多く、次の曲のワルツはピアノの小品としてよく奏されています。

イ短調の部分は軽くやや速く、トリオに当るイ長調の部分はややおそく奏するとよいでしょう。

[28] ワルツ 〈デュラン作曲〉

前の曲のシャコンヌと同じデュランの作で、華やかな技巧を要しますが、それだけに演奏効果の上がる曲です。

[29] ジブシイ 〈朝吹奏一作曲〉

元来木琴はジブシイ音楽の演奏にはなほだ適しており、ハンガリア狂詩曲やチゴイネルワイゼン等はしばしばそのプログラムに上がります。これも作曲者がジブシイ音楽に対する情熱を木琴にのせて作ったもので、作曲者の母親吹奏子の詩に想を得ています。カデンツァに続くラッセンでは「野に山に起きるも寝るもさだめなき流浪の民族」ジブシイの心の哀愁を歌い、フリスカでは、「燃ゆる思いを胸に秘めて声を限りに歌い踊る」ジブシイの娘を描いています。ジブシイ音楽の特性であるテンポ・ルバート（自由に変化する速度）は随所に見られますが、殊にフリスカの最初の12小節はゆっくり出て漸次速度を増し、13小節目で大体メトロノームの指示通りになり、その後は一定のテンポで進みます。8小節の間奏の後の変奏は、やはり初め速度を少し加減します。

[30] 「天国と地獄」序曲 〈オフェンバック作曲〉

オフェンバックは19世紀の終り頃、花の都パリで活躍した喜歌劇の作曲家で、その作品には「ホフマン物語」などがあります。

これはドイツのグルクが作った「オルフォイス」という古い戯劇を喜歌劇にもじったものの序曲ですが、メロディもリズムも非常に変化に富んで面白いので、よく演奏されます。特に終曲のギャロップ風の部分は日本では昔「活動写真音楽」に使われて有名です。

■最後に本曲集に出て来る音楽上の用語や、さまざまな記号の主なものについて説明します。

<i>cresc.</i>	(クレッシェンド) 段々強く。	<i>dolce</i>	(ドルチェ)	やさしく、甘く。
<i>dim.</i>	(ディミニユエンド) 段々弱く。	<i>espress.</i>	(エスプレッシーヴォ)	表現を豊かに、感情をこめて。
<i>D.S.</i>	(ダル・セニョ) ♪ へ戻る。	<i>Intro.</i>	(イントロダクション)	導入部、序奏。
<i>D.C.</i>	(ダ・カーボ) はじめへ戻る。	<i>Cad.</i>	(カデンツァ)	独奏者が自由に技巧を發揮するように作られた部分。
この二つの場合には、退つてから途中で <i>Coda</i> (コード) へ行く場合が多いです。コードへ飛ぶ印は  を用います。コードとは結尾と言う意味です。				
<i>Fine</i>	(フィネ)	<i>G.P.</i>	(グラント・ポーズ)	全具休止、即ち本譜の場合は木琴もピアノも一小節完全に休み何の音も出ないこと。
<i>rit.</i>	(リタルダンド) 徐々におそく。	$\text{♩} = 76$		これはメトロノームの速さを表わし、その曲の大体のテンポの目安を示します。
<i>accel.</i>	(アチェルランド) 段々早く、せきこんで。			トレソロ奏法。
<i>a tempo</i>	(ア・テンポ) 本来の速度で。(上記の <i>rit.</i> の後などに用いる)	R L		R = 右 L = 左 ばらの使い方を示します。何もない所はどちらでもやり易い方で、但し左右交互の原則はなるべく守ること。

I. グレトリのガボット

Gavotte

A. E. M. Grétry
 グレトリ 作曲
 朝吹英一 編曲

Allegretto (♩=126)

a)

p *L* *L*

f pesante *pp*

p *L*

f pesante *pp*

D.C. al Fine

D.C. al Fine

2. ト調のメヌエット

Minuet In G

L. van Beethoven
ベートーベン 作曲
朝吹 英一 編曲

Allegretto (♩ = 92)

p con grazia

mf espressivo

p

1. 3. 2.

Fine

Trio (♩ = 112)

11

First system of music. Treble clef staff with notes and rests, marked *p*. Above the staff are markings *R L R L*. Piano accompaniment in treble and bass staves, marked *p*.

Second system of music. Treble clef staff with notes and rests, marked *f*. Above the staff are markings *R L R*. Piano accompaniment in treble and bass staves, marked *f*.

Third system of music. Treble clef staff with notes and rests, marked *p*. Above the staff are markings *L R L R*. Piano accompaniment in treble and bass staves, marked *f* and *p*.

Fourth system of music. Treble clef staff with notes and rests, marked *D.C. al Fine*. Above the staff are markings *1.* and *2.*. Piano accompaniment in treble and bass staves, marked *D.C. al Fine*.

3. 登山電車 Funiculi Funicula

Allegro Brillante (♩ = 138)

L. Denza
デンツァ 作曲
朝吹英一 編曲

Piano

pp cresc.

The piano introduction begins with a treble and bass staff in B-flat major. The treble staff features a melody of eighth notes, while the bass staff provides a steady eighth-note accompaniment. The piece starts with a piano (pp) dynamic and a crescendo (cresc.) marking.

f mp

The piano continues with a treble and bass staff. The treble staff has a melody of eighth notes, and the bass staff has a steady eighth-note accompaniment. The dynamics shift from forte (f) to mezzo-piano (mp).

Marimba

mf

The Marimba part is shown on a single staff, starting with a mezzo-forte (mf) dynamic. Below it, the piano accompaniment continues with a treble and bass staff, also marked with mf.

ff

The piano concludes with a treble and bass staff. The treble staff features a melody of eighth notes, and the bass staff has a steady eighth-note accompaniment. The dynamics reach fortissimo (ff).

1. 2.

mf *p* *p* *ff* *p* *ff* *ff* *ff*

f

f

pp

pp

cresc.

f

cresc.

f

1. 2. 3.

D.S.

D.S.

4. 深い河

Deep River

Negro Spiritual

黒人霊歌

朝吹英一 編曲

Lento (♩ = 58)

*col8**mf* (オクターブトレモロ奏法)